

愛知

第14回「人権と介護」オンライン研修会を開催

「ケアの権利」を「社会権」として位置づけることが必要

地域人権ネット(丹波 正史代表)は2月12日、

介護施設責任者やケアマネジャーなどが参加した。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、会場での研修からオンラインに変更して初めての取り組みとなりました。研修の内容は、YouTubeでの配信も予定しています。

素として、「場の中にいる、場のなかの関係性が必要」として「協同的関係性」を提示し、「当事者―実践者―市民が相互に実践を展開する主体となり、その実践を相互に点検しあい、そこに生じた矛盾や課題を解決する運動を共に創り上げる関係性がケアの中では必要」と説きました。



オンライン配信で語る丹羽徹さん

第一講義は、「当事者の姿から見たケアリングの本質」と題して佛教大学社会学部教授でもあり社会福祉法人一麦会(麦の郷)理事長の山本耕平氏から講義。「ケアする」ということは、知識や技術を単に増やすことではなく、根本的に新しい経験や考えを全人格的に受けとめていくことをおし、その人格が再創造されることである」と話しました。

また、ケアの大事な要

岡山

「選択的夫婦別姓」に反対の意見書、岡山県議会が可決

結婚に際し、希望すれば夫婦が「別姓」を選択することも可能とする「選択的夫婦別姓」法案。

この法案の導入に反対する国への意見書提出を求める陳情を、3月19日、岡山県議会本会議は、自民党の賛成多数で採択しました。採決に先立ち自民党以外の共産党、公明党、民主・県民クラブの3会派から「拙速な反対の意見書を県議

会との総意として出すべきではない」との反対討論が行われました。賛成討論はありませんでした。反対討論では、「同性を義務づけたままでは不利益を生じる場合などがあり、女性の就業や結婚、出産の障壁」「若い世代が望む結婚観や多様な性のためにも選択的夫婦別姓を進めていくべき」「ジェンダーギャップ解消を求める国際的に遅れている日本の現状を意見

書はさらに後退させるものだ」との批判が相次ぎました。また、「別姓」導入に反対する陳情で述べられている「同じ姓を名乗れば、家族の一体感や幸福が守られると考えるなら安易な幻想にすぎない」との鋭い指摘も行われました。一方で同様の陳情に関する、3月15日、岡山市議会は否決しています。

山口県人権指針

LGBT再構成を審議会採択

山口

第14回山口県人権施策推進審議会が、1月28日に県庁で開催されました。

議題は、LGBTなどいわゆる性的少数者に関する問題についてなどでした。性的少数者に関する問題については、第11回審議会

(2017年6月)以来、継続審議になっていました。

この日の審議会で、弁護士委員から「性的少数者の人権課題」と題する資料をもとに説明がありました。

討論では、末長正委員(山口県人権連書記長)が、LGBTの定義、割合、LGBT以外のマイノリティ、自らLGBTと告白した芸能人、日本におけるLGBTへの対応(現状、カミングアウトへの不安)などについて発言し、LGBTについて県人権指針を再構成する事に賛成しました。審議会はこれを採択しました。



全水100周年を迎え、考えること⑩

福岡県における水平社結成の歩み

福岡県連会長 川口 學

筑豊から福岡へ

1922年3月3日、京都の岡崎公会堂で全国水平社の結成を新聞記事で知って喜んだ嘉穂郡飯塚町下三緒の松本吉之助は、その3月、鞍手郡植木町願照寺の花山清を訪れ、花山を中心の中島鉄次郎、柴田啓蔵らと水平社結成を相談しました。花山清は、京都の全国水平社本部に直接赴いて、「全九州水平社」本部を自宅の嘉穂郡二瀬村に置くことを伝えます。

翌23年2月15日、花山は他の同志ら5人と福岡市吉塚の松本治一郎氏を訪れ九州水平社設立を相談します。福岡側は松本治一郎、藤岡正右門(藤岡祥三の父)、梅津高次郎、中村浪次郎が参加し

ています。これが歴史的に有名な「吉塚会談」です。同年3月、京都での全国水平社第2回大会に九州から松本吉之助と中島鉄次郎の2人だけが参加。そして5月1日のメーデーに、全九州水平社創立大会を福岡市東公園の「博多座」で開催しました。警備はきびしいものがありました。水平社中央本部から、坂本清一郎、西光万吉をはじめ10名ほどの幹部が激励に駆け付けています。

さらに、全九州水平社創立大会前後の福岡では藤開シズエ、高丘カネ、藤竹ヨシノ、西田ハル(西田積の母)を中心に「福岡県婦人水平社」(1925年5月1日)が正式に創立され、男性の活動家と共に県下、九州各地をオルグ・講演し、各地区に水平社組織の結成を積極的に訴えて活動したと

団結した大衆運動が発展していきました。その後、農家が多い各地の「部落」では農民座談会を開き小作争議をたかかって農民組合も同時に組織されていくことになったそうです。九州水平社が結成されると、福岡県下では各地で座談会、演説会が開かれ、烈火のように組織化が広がります。7月1日には「福岡県水平社」が福岡市で結成されました。この大会には全国水平社本部から、坂本清一郎、泉野利喜蔵、米田富らが来援し、県下の婦人部から西田ハル、高丘カネ、藤竹ヨシノら多数が駆けつけ次々に祝辞を述べたといわれ参加数も数千名に上ったといわれています。



全九州水平社創立記念。1923年5月1日

「福岡県婦人水平社」が藤開シズエ、高丘カネ、藤竹ヨシノ、西田ハル(19歳)、菊竹トリ(15歳)等を中心に1925年5月1日に創立。「男性の横暴と部落差別の二重の苦しみに悩む」部落婦人の自覚と向上を

女性の決起があればこそ!

呼び、かの英仏百年戦争で仏軍を鼓舞して闘った「ジャンヌ・ダルク」を讃え、男子にまさる信念をもって運動に参加しようと呼びかけたのは有名です。(詳しくは月刊誌『地域と人権』で紹介予定です)